

令和6年度 信教全県研究大会 授業指導案

【個人研究テーマ】 「教える」から「子どもたちと共に学ぶ」授業への転換
～子どもたちが習得した知識技能を活用し、思いをもって生き生きと表現していけるようにするために～

日時 令和6年 11月 21日(木) 第5校時(13:45～14:30)

題材名 和音のひびきや音の重なりを感じ取ろう
「和音の音を声で表そう」「星の世界」「和音の音で旋律づくり」

授業学級 6年1組(男子12名、女子9名 計21名)

授業者 高野 直実 教諭

指導者 信州大学准教授 桐原 礼 先生

1 テーマ設定の理由と研究の方向について

<私の6年間の授業づくり>

- 豊かな音楽表現をするための知識・技能の定着の徹底(1, 2年目)
- 知識・技能を活用できる授業の系統づくり(3年目)
- 高学年での音楽づくりの授業を通して協働的な学びを充実させる(4年目)
→音楽づくりを通して「何をやるのか」「どういうふうに作ればよいのか」という見通しがはっきりすることで、子どもたちが活動に意欲的に取り組む姿が見られるようになる

○コロナ禍で大きな影響を及ぼした歌唱

「高学年でも“歌いたい”の気持ちがあふれ、表現を深めることのできる歌唱授業のあり方」というテーマでの取り組み(5年目)
(「表現する楽しさ」「表現する勇気」を育てることを目的に)

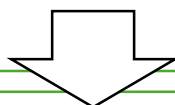
<学校目標・全校研究テーマについて>

全校研究テーマ：自ら主体的に学ぶ子どもを育成するために

テーマ設定の理由：教師に言われたことは素直に受け取り活動することができる子が多い反面、自分の判断で行動することに戸惑いを見せている姿や与えられた課題には取り組むが、自分から課題を考えることがあまり見られない。本校4年目のテーマである。

<昨年度の6年生の姿から>

- 3, 4年生の時…「音楽の授業大好き！」と楽しそうに授業に来て活動する子どもたち
- 6年生…歌唱や器楽の活動への取り組みに対する積極性が見られず、授業を受けている子どもたち



- ・周りより目立たないようにか細い声で歌う姿
- ・子どもたち同士がつまらなそうに追究をすすめる姿



- ・どんどん教師が授業を引っ張るような状況へ
- ・子どもたちにとっては「やらされている」という気持ちでいっぱいという悪循環に

<原因として考えられること>

子どもたちの願いを教師がうまく引き出すことができなかつたために、願いが見えない状態や、願いが活かされない状態を作り出してしまった

※その背景には、教師が「今日はこれをやりましょう」と課題を与え、それをこなす、という、教師が上から指示を出したり教え込んだりする一方的な授業が主流になってしまっていたことも考えられる



○子どもたちが生き生きと自分の力で追求していくために必要だと思われること

★「子どもと共に作る」とは・・・

子どもの「問い」や「願い」、「気づき」「考え」などに基づき、子どもが主体的に追究していく学習

子どもが学ぶことの楽しさやよさを感じる学習、実感を伴った学習



2つの柱を軸に



子どもの願いを 引き出すにはどうしたらよいか

・「これやりなさい」「あれやりなさい」ではせつかく子どもたちがもっている願いがしぼんでしまう。

・「問い」や「願い」「気づき」「考え」が課題解決に向けた追究の原動力

・決められたルールにそったやり方しかできなければ受け身になってしまい、追究のエネルギーがしぼんでしまう（例:思いや願いが違うのに同じ課題をやらされる）

・追究の過程で、自分たちで学び方を選択したり工夫したりアイデアを出したりしていくこと(機会、場、時間)がないと、追究の原動力が高まっていけない。

・子どもたちの主体性をいかす追究の方法を考える必要がある。

教師と子どもの関係はどうあったらよいか

教師と子どもの関係性は上下の関係ばかりでなく、時には子どもと一緒に考えたり子どもに教えてもらうような横の関係や、俯瞰的に見守り、必要に応じてアドバイスをする関係など、場面によって使い分けることが大事になってくる。



生きる力の1つである、

【基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力】を音楽を通して育むのが最終目標



2 研究の経過（私と子どもたちとのあゆみ）

① 願いや思いをもたせることでみられた成果と課題

願いや思いをもたせるためには、その教材と子どもたちの距離を縮めることが一番大きな要であると考え。具体的に言うと、いかにその曲を好きになれるか、思いを寄せられるか、ということである。

そのため、『ふるさと』では、高野辰之が曲を作った背景について紹介したり、長野オリンピック閉会式で世界中の人がいる中で歌われた映像を紹介したりした。

その後、リズム譜を提示し、リズム打ちやリズム歌いを通してどうしてそうなっているのか、音楽を形づくっている要素を変えてみたらどのように変わるか、違うリズムや音符で比較して歌ってみることを繰り返しながら考えていく場面では、以下のような子どもたちの発言があった。



S1: 3段目だけリズムが違う。八分音符も入って細かくなっているよ。

T: どうして3段目だけリズムを変えたのだと思う？

S2: 高野辰之が「自分のふるさとへの思いはずっとあるよ」ということを強く表したかったからだと思う。

S3: 夢に向かって進んでいるんだ、ということで気持ちが動くのを表したかったからじゃないかな。

S4: 2段目までは過去の出来事。3段目からはいまもある強い気持ちだからリズムを変えたのでは？

このように、楽譜にあるリズムや音符に着目し、そうなっているのはなぜなのかを考える際には高野辰之の思いをもとに、自分の考えを述べる子どもたちの姿がみられた。その後の自分が大切に歌いたいところはどこか、理由とどう歌いたいか考える場面でも、やはり高野辰之の思いから自分の思いを重ね、表現の工夫を考えようとしている子どもたちの姿があった。

また、長野オリンピックの閉会式の映像を見て歌を聴き、子どもたちは、「世界中の人にも聞いてもらった歌なんてすごい」「みんなが一つになれる曲なんだ」と、『ふるさと』という曲の偉大さや曲がもつ力に気がつき、この曲を御代田町（子どもたちの意識としては、地域や全校の人）へ届けたい、という思いをもって、「ふるさと」の曲の

【（「夢はいまもめぐりて～」の追究を始めたグループの様子）】（表3）

S1:（めぐりてを指さし）ここ、クレッシェンド入れたいんだよ。（書き入れる）

S2: 歌ってみただけど、音量はいいけど、ずっとおんなじ感じだね。

S1: だからここにクレッシェンド入れよう。

T: 何でここにクレッシェンド入れたの？

S1: え？何でだろう。ここが音が上がっているから音量も上げた方がいいと思って。

よさが伝わるようにとグループ内で話し合いながら強弱やフレーズを中心として表現の工夫に取り組むことができた。

反面、自分のイメージに合った強弱を一方向的に主張する子どももあり、それに従わざるをえない子どもの姿もみられた。（表3）

思いを共有する場面や思いを確認する場面を丁寧にとり、それぞれが出し合った思いをさらに「見える化」していかないと、「一方通行」の工夫になってしまい、「双方向」の対話をしながら表現の工夫は行っていけないと感じた。

S1: 必ず段の最後に四分休符が入っている。

S2: ほんとだ！しかも、その前の音符は3段目以外二分音符だね。

T: どうして二分音符にしたのかな。四分音符じゃいけないのかな

S3: 四分音符じゃ夢がとぎれる感じがするよ。

S4: 夢をもっているからそれを忘れない、という意味でも四分音符じゃ短すぎるよ。

T: なるほどね。じゃあ全音符でもよかったのにねえ。

S5: 段落ごとに言っていることが違うから一つの区切りとして全音符にはしなかったんだと思う。

S6: 全音符だとのばしすぎて夢が遠ざかる感じになっちゃう。

今回は、教材と子どもたちを近づけるため、曲に対する個々のイメージをもたせること（絵を描く、AIで画像を作る）はもちろん、友だちがどんなイメージをもっているのか、グループごと自分の考えるイメージを見合い、楽譜に書き込んでおいていつでも確認できるようにすることを丁寧に行っていきたい。そのことが、一方的な主張で終わらず、言葉で伝えづらい児童も各々の思いが見え、共有でき、全員の思いをこめた表現の工夫につながると考える。

② 音の重なるの美しさに心をよせる子どもたちの姿

4年次まではソプラノの後をアルトが追いかけて少し音が重なるといったパターンの合唱が多かったが、5年次から本格的にソプラノとアルトに分かれる曲に取り組むことが増えてきた。曲を聴くとソプラノとアルトがあることにすぐ気がつき、ソプラノとアルトに分かれて音を取り、声を重ねると笑顔になる子どもたち。ハーモニーを作ることとても楽しんでいる姿がある。

さらに、音楽会で取り組んだ「地球星歌～笑顔のために～」では、アルトの児童は、出しゃばりすぎるのではなく、メロディのところは出る、それ以外はソプラノに寄り添うように丸い声で歌うことが大事だと考えていた。いままでは音をとることに必死だった子どもたちがソプラノとアルトの声量のバランスまで踏み込んで考えながら歌う姿があった。

今回の題材展開では、いままでの2パートでの音の重なるの学習を生かしながら、さらに和音にも迫っていくため、題材の最初の2時間でI度、V度を中心とした5年時で学習してある和音の復習をしてからその和音の構成音を3パートに分かれて声で表す授業を行っておくことで、「星の世界」でも和音を声で表した経験をふまえて自分たちで練習できるようにしたい。また、和音の響きに慣れておくことで、単に音取りができればよいということだけでなく、響きのためにバランスを工夫することも考えられる。

③ 教師と児童の関係性について

今年度の6年生は、1、2年生の頃から音楽の授業を担当してきた。毎時間その日の活動につながるような常時活動を行ってきたことで、自分たちから「これはリズムが違う」「ここのところはどうしてこうなの？」「次は拍を意識したらうまくいくんじゃないかな」という音楽的な気づきをもとに友だちと語ることができる子どもたちである。『ふるさと』では、自分の思いを表現するための工夫の場面では、自分たちで考えながら強弱を工夫したり、聴き手を出したりして聴き合い、アドバイスするような場面もみられた。

また、友だちの気づきに対して否定せず、「そうだね」「分かるよー」「そんな工夫もあったのか」「そのアイデアいいね」と受容できる温かい人間関係がある。

長年の授業での積み重ねと、温かな人間関係を生かし、今回は第一時、第二時の経験をもとに、自分たちで音を重ねるための練習方法やアイテムを考え、試す活動をメインに据える。

このことは、声が出しづらい変声期の男子たちだけでなく、他の子どもたちにとっても、今までつけてきた力を生かし、自信をもって声を出せるようにするための第一歩を見つけ、「自分でできた！」「こういう方法を試せばいいのか」と感じられる絶好の機会になると思う。



3 題材の目標

- (1) 曲想と和音の響きなどの音楽の構造との関わり、音の重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて表現する技能、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。【知識及び技能】
- (2) 音の重なり、和音の響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについてや、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 和音の響きの移り変わりや音の重なりを感じ取って歌ったり、旋律をつくったりする学習に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくりの学習活動に取り組み、様々な音楽にみられる和音の響きや音の重なりに親しむ。【主体的に学習に取り組む態度】

<学習指導要領の指導内容との関連>

A表現 (1)歌唱 ア、イ、ウ(イ)(ウ)

(3)音楽づくり ア(イ)、イ(イ)、ウ(イ)

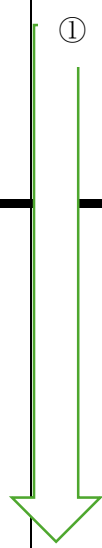
[共通事項] ・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素

ア 和音の響き、音の重なり

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 ①曲想と和音の響きなどの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。(歌)</p> <p>技 ②思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能や、各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。(歌)</p> <p>知 ③音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解している。(づ)</p> <p>技 ④思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。(づ)</p>	<p>思 ①音の重なり、和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>思 ②和音の響き、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(づ)</p>	<p>態 ①和音の響きの移り変わりや音の重なりを感じ取って歌ったり旋律をつくったりする学習に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

第5時(本時)	<p>○歌声が重なり合う響きを感じ取りながら「星の世界」を合唱しよう①</p> <p>本時案参照</p>		②	①	
第6時	<p>○歌声が重なり合う響きを感じ取りながら「星の世界」を合唱しよう②</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループごとに自分たちが音の重なりをつくるために行った方法を発表する。 ●3部合唱の響きを美しくするための追究をまとめ、全員で歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の仕方を提示する。 ・発表の際には、「どういう工夫をしたか」を伝えてから発表するようにする。 ・聴いてもらったグループの意見をもとに、必要に応じてもう一度修正する時間をとる。 ・全体での発表の際には、よい部分を中心に感想を言うように伝える。 <p>【行動観察、表情観察、発言内容、ワークシート】</p>	②		
第7・8時	<p>○和音にふくまれる音を使って旋律をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●I度とV度の音を使っての旋律づくりをする。 <ul style="list-style-type: none"> ●つくった音楽を発表する。 ・テーマに合った音で、素敵な曲になっているなあ。 ・みんなで歌ってみたらまた雰囲気が変わる。楽器でやってもいいかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でワークシート、カトカトーン（作曲ソフト）、ミュージックラボ（作曲ソフト）の中から選んで音楽づくりを行うよう伝える。 ・つくった音楽を発表する際には、音楽を聴くだけでなく、必要に応じて自分たちの声や楽器で合わせることもやってみるようにする。 <p>【行動観察、表情観察、発言内容、作品（ワークシート or カトカトーン or ミュージックラボ）】</p>	③ ④	②	②



※この単元の常時活動で必ずやっておきたいこと

- ・ハーモニーをつくることへの慣れ（ほたるこい、など簡単にできるもので）

★音が重なることよさや、単音と和音で響きが違うことを都度子どもたちに問いかけ、実感できるようにしておく。

6 本時案

(1) 主眼

「星の世界」の3段目から4段目に入るところで斉唱から3部合唱に戻ると気づいた子どもたちが、3段目から4段目にかけて和音を声で表す場面で、グループごとに自分たちの考えた練習を行うことを通して、4段目の音の重なりをつくることができる。

(2) 本時の位置 全8時間中 第5時

前時：斉唱から3部合唱に移るところの和音の響きを追究し始めた。

次時：各グループで工夫を発表し、「星の世界」を合唱する。

(3) 指導上の留意点

- ・イメージや、なぜ4段目にかけて3部に戻ったかについて、楽譜の上部に記入できるようにしておく。
- ・子どもたちが選択できる場面を持たせる。（音取りのアイテム、活動場所）
- ・4段目の最初の音は、日本語で歌うと「の（ぞめば）～」だが、声が出しにくい言葉であるため、言いやすい他の言葉で歌ってもよいことにする。
- ・「ふけゆく秋の夜 澄みわたる空 のぞめばふしぎな～」の部分のみ録音した歌を用意しておく。

(4) 展開案

段階	学習活動	予想される児童の反応	○指導・援助 評価の場面	時
導入	1 「星の世界」を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・高い音が歌いにくいので、はっきり歌いたいな。 ・歌詞の意味を考えながら歌おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音程がとれていない箇所は取り出して練習するようにする。 	5
	2 本時のめあておよび流れをつかむ。(全体)	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【学習問題】</p> <p>・「星の世界」の4段目で音の重なりをきれいに つくるためには、どんなことをしたらよいだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちの班は、真ん中のパートに男性の先生に入ってもらって、その音を完璧にしてから全員で合わせてみようと思う。 ・私たちの班は、まずキーボードに合わせて「ファラド」の和音をハミングで作る練習をしておいてから下の2パートを合わせる→3パートで合わせると段階を踏んでやってみたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前回の学習を振り返り、斉唱から3部合唱に戻ったことと、これから試してみる練習の方法について確認をする。 	5
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>【学習課題】</p> <p>自分たちの考えた練習方法やアイテムを使って、4段目の音の重なりをつくれるようにしよう</p> </div>				
展開	3 3段目から4段目の練習をする。(グループ)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>☆すすめる上での注意点☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4段目の「の」は、他の言葉に変えて練習してもよい。 ・使用するアイテムは何度でも変えてよい。 ・聞き役を立てて練習する。 ・工夫ができたと思ったら先生や他の班に聞いてもらう。(人を増やしてもよい) ・使用するアイテムによって練習する部屋を分けてもよい。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・一番上のパートをリコーダーでやって、そのほかだけを先に練習してみようよ。 ・ハミングでやったら重なってきれいな響きができるね。「星の世界」の澄み渡る空が表せている気がする。歌でやってみよう。 ・あのグループは、私たちとは違うやり方をしているよ。見てみようよ。 ・うまく合わないなあ。どうしたらよいんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的かつ協働的に活動できるように、すすめる上での注意点を確認しておく。 ・グループを回り、どんな練習をしているのか一緒に歌いながら確認する。その際に、どうしてその方法を使って練習したのか、子どもの考えを認めながらすすめていけるような助言をするようにする。 ・音の重なりができれば、それが最初に考えていたイメージと合うかどうかについて聞いていくようにする。 ・うまく3パートでハーモニーをつくることのできないグループについては、下の2パートで取り組んでみることを伝える。 ・音の重なりができたと思うグループは、聞き役を立てて自分たちの響きを確かめて工夫をよりよいものにしたたり、他のグループに聞いてもらったり、さらにできそうな工夫を考えたりするよう伝える。 	23
	4 全体で発表する。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・すごくきれいな響きだと思う。「星の世界」のきれいな空が表れている感じがしたよ。 ・ハミングでやるアイデアはなかったなあ。実際にやってみたらどうなるのかやってみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの練習した成果を聞いてほしいグループを取り上げ、全体で聴く時間を設ける。その際、グループの子どもたちから練習方法や試したアイテムに 	7

終末	5 本時のまとめをする。(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・今日はいろいろなアイテムを試して、自分たちなりに音を重ねるための工夫ができてよかった。 ・聴いてもらった時うまくいなくて残念だったな。ハミングの方法でいけば、必ず音は取れたから次回は同じ方法でもっと練習してみよう。 ・発表した班のように、言葉を「マ」に変えるとやりやすいのかな。次回やってみよう。 	<p>ついて言ってもらってから発表させるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表してくれたグループの練習方法や使ったアイテムを全員で試す場を設ける。 <p>自分たちの考えた練習方法やアイテムを使って、4段目の音の重なりをつくろうとしているか</p> <p>【行動観察、発言内容、楽譜への記述】</p> <p>○うまくできた感想だけでなく、うまくいかなかった感想も取り上げ、次時につなげるようにする。</p>	5
----	------------------	---	---	---

(4) 見ていただきたいこと

- ・子どもたちがイメージを共有し、自分たちで練習方法やアイテムを考えたことは、4段目の音の重なりをつくる上で有効であったか。

7 素材研究と教材化

【I度→V度→I度のカデンツ】

- ・音があまり変わらず、短いので、音取りがかんたんである。響きを感じるのにもちょうどよい長さである。
 - 自分たちで声を出しながら歌うパートを決め、アイテムを試しながらグループでカデンツがつかれるようにする。アイテムが子どもたちからうまく出てこない時には、こちらからアイテムの例を提示してみるようにする。

【星の世界】

- ・音の重なり的美しさが感じられる曲。(もともとは讃美歌)
- ・1, 2, 4段目がほぼ同じか、似ているため、3段目→4段目の和音をつくることの追究にしばらくすることで、実は1, 2段目も歌えてしまうよさがある。
 - 曲のイメージを膨らませられるように絵を描いたりAIの画像作成をしたりする。
 - 音とりをした後、自分で歌ってみてパートを決めるようにする。

【和音の音で旋律づくり】

- ・和音の音を選ぶだけで曲ができてしまう。
 - イメージをもたせるため、テーマを考えてから音楽づくりにはいっていきけるようにする。